

平成29年漁期のワカメ漁獲について

食品科学研究部 齋藤 剛

はじめに

近年、国産ワカメの需要の高まりから、ワカメ養殖に着手する県内の漁業者が増加しています。

水産研究センターは、ワカメ養殖漁業者に対し、採苗の技術指導や育苗期の温度管理、ワカメ種苗の沖出し技術、高水温対策など、様々な技術指導を積極的に実施してきました。(図1、2)



図1 商品性の高い形質を持つメカブから作成したワカメフリー配偶体



図2 順調に生長したフリー配偶体由来のワカメ

調査内容について

■今漁期の漁獲の状況

平成29年漁期のワカメは、天然及び養殖の合計で生産量1,053.7トン(昨年比151.4%)、生産金額9,252万円(昨年比149.5%)、平均単価87.8円/kg(昨年比98.7%)でした。

メカブは、天然及び養殖の合計で、生産量65.2トン(昨年比174.7%)、生産金額1,034万円(昨年比197.7%)、平均単価158.6円/kg(昨年比113.1%)でした。(図

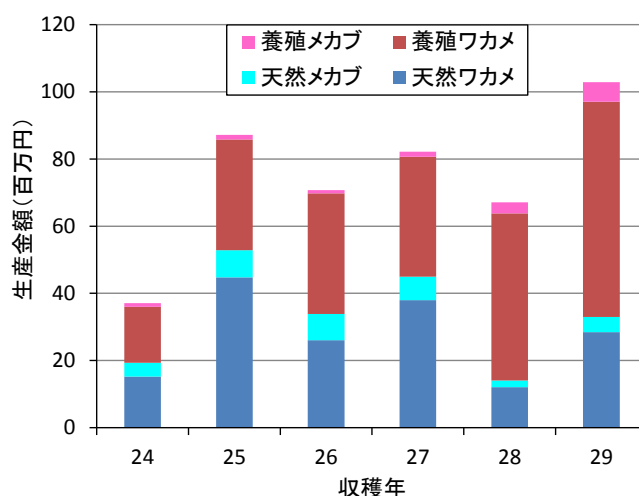


図3 ワカメ及びメカブの生産金額の推移

3)

ワカメとメカブを合計した総漁獲金額は、10,287万円（昨年比153.3%）となりました（図3）。

また、養殖、天然別にみると、養殖ワカメは、漁獲量729.1トン（昨年比130.4%）、生産金額6,405万円（昨年比128.7%）、平均単価87.8円/生kg（昨年比98.6%、図4）、養殖メカブは、漁獲量43.8トン（昨年比147.3%）、生産金額586万円（昨年比177.8%）、平均単価133.7円/生kg（昨年比120.6%、図5）でした。

また、天然ワカメは、漁獲量324.6トン（昨年比237.3%）、漁獲金額2,847万円（昨年比235.2%）、平均単価87.7円/生kg（昨年比

99.0%、図4）、天然メカブは、漁獲量21.4トン（昨年比282.4%）、漁獲金額484万円（昨年比231.6%）、平均単価は209.6円/生kg（昨年比82.0%、図5）でした。

■今漁期の特徴

県内で最も養殖ワカメ・メカブの生産量の多い上天草市大矢野地区（水研センター前）における11月の水温の推移を図6に示します。水温は、養殖開始直後である11月の第1週までは21~22℃を推移し、平年より1~2℃ほど水温が高い状態であったものの、その後11月中旬には20℃前後に水温が低下したことから、概ね順調に生育した地区が多くありました（高水温で苦しんだ昨年は11月の1か月

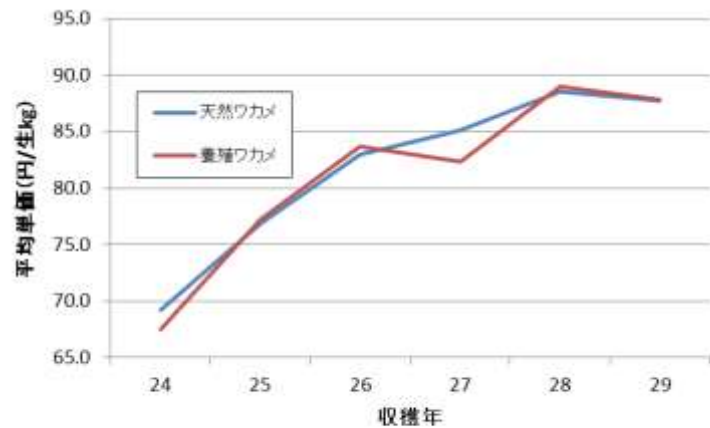


図4 ワカメの平均単価（円/生kg）の推移（直近6ヶ年）

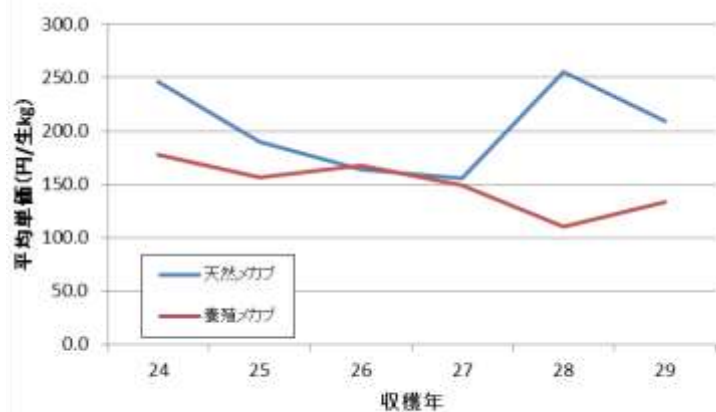


図5 メカブの平均単価（円/生kg）の推移（直近6ヶ年）

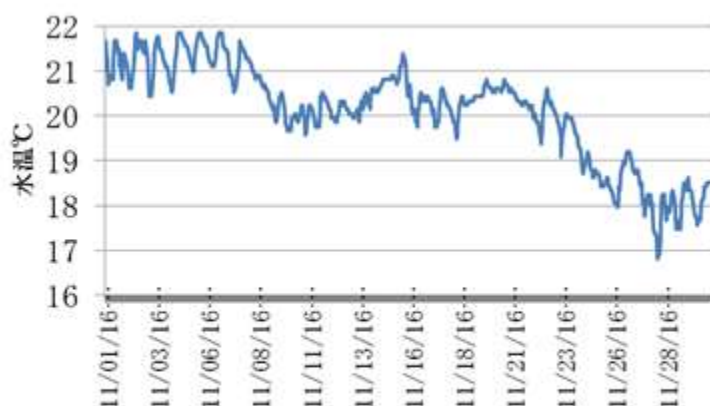


図6 平成28年11月の水温の推移（水産研究センター前）

高水温で苦しんだ昨年は11月の1か月

間、継続して 20℃以上の日が続き不漁の年となりました。

しかし、一部地区では昨年と同様、今漁期も魚類等による食害や芽流れも起こったと聞いています。

また、3月～4月後半も 20℃以下の低水温が続いたことからワカメの生長が良く、漁期後半に再度ワカメに伸び足がついて生産量が伸びたと考えられます。

一方、今漁期の天然ワカメは、生育がほぼ平年並みで、生産金額は直近 6 年間で 3 番目に良い年となりました。

一般にワカメは養殖物が上質と言われ、単価も高いですが、本県では地元で海藻問屋が多くあることから天然物も高く買い取られており、養殖物とほとんど変わらない単価となっています。しかし、ここ数年で高単価も頭打ちとなってきている状況もみられ(図 4)、今後は本県も東北のブランドワカメ(平均単価 120 円/生 kg 程度)に負けない高品質なワカメを作出していくことが必要です。

また、天然メカブの単価が高い理由は、12 月末に市場出荷されたものが多く、高単価なためです。

いずれにせよ、直近 6 年(特にここ 2 年)で県内の

ワカメ漁業の状況は大きく変わり、ワカメ・メカブ漁獲量、漁獲金額に占める養殖の割合が大きくなってきているのが顕著にみとれます(図 7、8)。

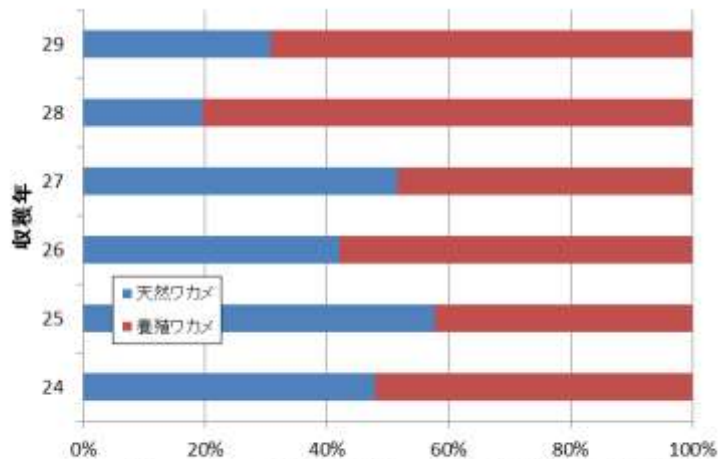


図 7 ワカメ漁獲金額に占める養殖・天然の割合の推移(直近 6 年)

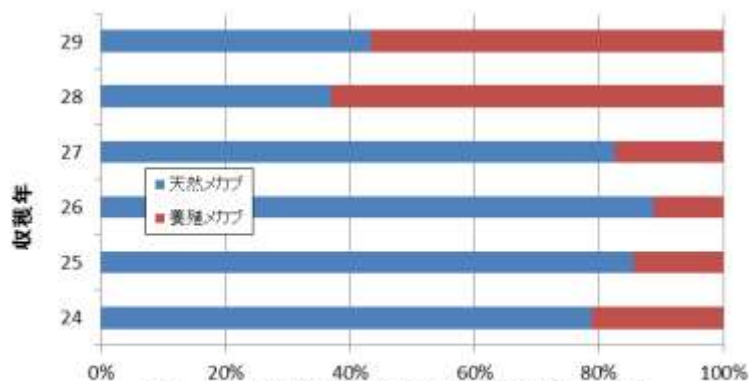


図 8 メカブ漁獲金額に占める養殖・天然の割合の推移(直近 6 年)

今後について

このような状況を踏まえ、食品科学研究部では、今後も経費の掛からない漁業として代表的なワカメ養殖を推進するため、品種改良を行い、漁業者と協力して、熊本県の海況に合った高品質で高収量なワカメを作出したいと考えています。